

日本結核病学会近畿支部学会

—— 第104回総会演説抄録 ——

平成21年12月12日 於 大阪国際会議場（大阪市）

（第74回日本呼吸器学会近畿地方会と合同開催）

会 長 中 野 孝 司（兵庫医科大学内科学呼吸器・RCU科）

—— 一 般 演 題 ——

1. 結核性胸膜炎加療中に発症した小細胞肺癌の1例

°草田詩恵（市立堺病第一診療）加藤元一・濱本裕美・小林岳彦・古下義彦・後藤俊介（市立岸和田市民病呼吸器内）三浦幸樹・川島裕之（同呼吸器外）

症例は57歳男性。右結核性胸膜炎で抗結核薬4剤併用療法中、右肺に多発結節影が出現。感染症との鑑別が困難で、生検の結果小細胞肺癌と診断した。結核と悪性腫瘍との関連について若干の文献的考察を含めて報告する。

2. 特異な画像を呈し、胸腔鏡下肺生検により診断しえた非結核性抗酸菌症の1例

°小川 拓・片浪雄一・忽那賢志・宇野健司・前田光一・古西 満・三笠桂一（奈良県立医大附属病感染症センター）

患者は肺血栓塞栓症の既往がある41歳男性。胸部CTで菌球類似の所見を見たが真菌感染症は否定的であった。胸腔鏡下肺生検の結果、非結核性抗酸菌症（NTM）と診断された。特異な画像を示したNTM症例として呈示する。

3. MDSに合併した播種性MAC症の1例

°真弓哲一郎・三村一行・勝田倫子・後藤孝吉・横山俊秀・渡部悦子・田畑寿子・宮川倫子・水守康之・塚本宏壮・守本明枝・岡本裕子・佐々木信・河村哲治・中原保治・望月吉郎（NHO姫路医療センター呼吸器内）

78歳男性。右胸痛で受診。CTにて肺、脾、骨病変を認め、気管支洗浄液、経皮肺針吸引液、胸水、血液培養から*M. avium*を検出。同時にMDSと診断、RFP、EB、CAM、SMで治療を開始するも増悪し死亡した。

4. 塊状影を呈し左上葉切除術を施行しえた肺MAC症の1例

°水守康之・勝田倫子・三村一行・後藤孝吉・横山俊秀・渡部悦子・田畑寿子・宮川倫子・真弓哲一郎・塚本宏壮・守本明枝・岡本裕子・佐々木信・河村哲治・中原保治・望月吉郎（NHO姫路医療センター呼吸器内）

56歳女性。結腸癌術後経過観察中に左上葉に塊状影を

認め紹介。経皮穿刺で*M. avium*検出、RFP、EB、CAM 3カ月投与後に胸腔鏡下左上葉切除術を施行、術後にRFP、EB、CAMを継続中で経過良好である。

5. 当センターにおける*Mycobacterium avium complex*の分布多様性と病原的意義の検討

°吉田志緒美・鈴木克洋・露口一成・岡田全司（NHO近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター）富田元久（同研究検査）坂谷光則（同内）岩本朋忠（神戸市環境保健研究所）

当センターでは、年間を通じて約300株もの*M. avium complex*が分離される。今回臨床現場で遭遇するMAC株の多様性と病原的意義を解明し、さらに感染様式の解明のために分子疫学的手法を活用し検討した。

6. 肺*Mycobacterium terrae*症の1例

°橋本成修・田中栄作・羽白 高・寺田邦彦・安田武洋・加持雄介・遠渡純輝・池添浩平・福永健太郎・中塚賀也・田口善夫（天理よろづ相談所病呼吸器内）野間恵之（同放射線）大楠清文（岐阜大院医学系研究再生分子統御学講座病原体制御学）

73歳男性。2009年検診にて左上肺野の空洞を有する陰影を指摘され6月9日紹介。喀痰より複数回非結核性抗酸菌を検出し、DDH法にて*M. terrae*と同定した。8月8日よりRECにより加療を開始し経過観察中である。

7. 肺MAC症に外科的治療を施行6年後対側肺に

*M. kansasii*症を発症した1症例 °香川智子・林 清二・坂谷光則（NHO近畿中央胸部疾患センター内）露口一成・鈴木克洋（同臨床研究センター）松村晃秀（同外）

症例は50歳男性、肺MAC症に対し化学療法を導入後手術を施行、化学療法は術後約1年後に終了した。約6年後喀痰培養より*M. kansasii*を認め陰影の出現を認めた。肺MAC症治療後*M. kansasii*症を発症した症例は稀であり報告する。

8. 小細胞肺癌治療中に肺結核を合併した1例 °金田俊彦・奥田千幸・木田陽子・金子正博・藤井 宏・富岡洋海（神戸市立医療センター西市民病呼吸器内）

症例は63歳男性。小細胞肺癌にて化学療法施行中、骨髄抑制等を認めず、安定して経過していたが、その後肺結核を併発。専門施設転院し加療するも、最終的に肺癌進行により死亡した1例について報告検討する。

9. アジソン病を併発した粟粒性結核の1例 °大塚今日子・永田一真・南條成輝・櫻井綾子・村瀬公彦・久保田未央・立川 良・竹嶋 好・林三千雄・富井啓介（神戸市立医療センター中央市民病呼吸器内）

67歳男性。意識障害で救急搬送。C両側肺野びまん性小粒状影、喀痰培養で結核菌が陽性より、粟粒結核と診断。低血糖あり、コルチゾール低値、ACTH高値、CT上副腎腫大、全身皮膚色素沈着よりアジソン病と診断した。

10. 神戸市で現在最大のクラスターを形成しているSM耐性結核菌株17例について °藤山理世・白井千香・樋口純子・片上祐子・千原三枝子・河上靖登（神戸市保健所）岩本朋忠（神戸市環境保健研究所）

神戸市では2003年より現在までに約1200株の結核菌を

VNTR法で分析。現在、10以上のクラスター形成株は6種である。最大のクラスター数は17で、SM耐性であり、いわゆるM4株と考えられる。

11. モンゴル人留学生に発症したMDR-TBの1例

°岡村英生・田中小百合・田村 緑・久下 隆・右田尊史・塚口勝彦・田村猛夏（NHO奈良医療センター内）症例は23歳女性。20歳時に肺結核の治療歴あり。平成21年4月の検診にて異常影指摘。6月18日当院入院し標準治療にて加療するも増悪。喀痰検査からMDR-TBと判明。外国人結核に関し若干の文献的考察を加え報告する。

12. 急性の経過で発症した結核性胸膜炎の1例 °岡森 慧・中塚賀也・福永健太郎・池添浩平・遠渡純輝・加持雄介・安田武洋・橋本成修・寺田邦彦・羽白 高・田中栄作・田口善夫（天理よろづ相談所病呼吸器内）

15歳男性。吸気時の胸痛と発熱が出現し来院。当日の胸部単純レントゲン写真にて異常陰影を認めなかった。症状持続するため1週間後に再受診したところ、左胸水貯留を認めた。胸水培養から結核性胸膜炎の診断を得た。